

2000年の時を超えて…

生命の神秘

大賀ハス

参考：一般的なハスの分類

目：ヤマモガシ目 Proteales

科：ハス科 Nelumbonaceae

属：ハス属 *Nelumbo*種：ハス *N. nucifera*

Q1.大賀ハスってなに？

A.1951年、大賀一郎博士の指示の下、千葉市内の約2000年前の地層より発掘された種子から、約2000年ぶりに発芽したという凄いハスです！
博士の名前を取って「大賀ハス」と名付けられました。

Q2.どうして古河市にあるの？

A.1975年に千葉市からハスの根2本を頂いたためです。植えられた大賀ハスは同年の夏には花を咲かせ、街の話題となったそうです。現在では頂いた根から増えに増え、総面積3000㎡の蓮池いっぱいになりました。

Q3.ハスの花はいつ見られるの？

A.花期は6月下旬から8月上旬で、最盛期は7月中旬です。

7月中旬以降は茎が伸びすぎて見にくくなります。

ハスの花ひとつひとつが開く期間はわずか4日間。深夜から早朝に咲き始め、正午頃には閉じてしまいます。

暑い夏。いつもより少し早起きして、古代のハスを見に来てはいかがでしょう？

1日目



朝5時頃から開き始めるものの開ききることはなく、8時頃には閉じ始めます。

2日目



深夜から朝7～9時にかけてゆっくり開き、正午頃には完全に閉じます。

3日目



2日目と同じように開き始めます。ただし花弁は色あせ始め、完全に閉じずに半開きのままです。

4日目



朝から1枚ずつ花弁が散り始め、昼頃までに散り終えます。散らず、退色した白い花弁が付いたままのこともあります。



←乾燥した果托

例年、11月頃に果托の刈取りを行います。果托は屋内で乾燥し、管理事務所にてひとつ50円で販売しています。古布を詰めて飾りにしたりします。

※果托…ハスの果実のこと。花弁があるうちは花托(花床ともいう)、花弁が落ちて、種子が熟し始めたら果托と書きます。